

## 9 河岸の町、布佐を訪ねる



所要時間 徒歩2時間

★190Kcal消費

布佐駅(東口)→①鮮魚街道・網代場・布佐河岸跡→②布佐観音堂→③松岡邸  
→④岡田武松邸跡→⑤延命寺→⑥勝蔵院→⑦竹内神社→布佐駅

## ① 鮮魚街道・網代場・布佐河岸跡

『利根川図志』により、その味利根川一と賞された布川鮭の網場。網代場はやがて利根水運の中継地ともなり、布佐河岸ができた。江戸時代、銚子や九十九里方面から運ばれる鮮魚をここで荷揚げし、一刻も早く日本橋魚市場に出すため松戸河岸まで馬で陸送する鮮魚街道の起点となった。

## ② 布佐観音堂

本尊は馬頭観音。相馬霊場58番札所。駄送馬慰霊のため間屋・馬主が建立。「江戸みち」と呼ばれる鮮魚街道がお堂裏沿いに延びる。1870(明治3)年、すぐ前の利根川堤防が決壊し、お堂が流失。1913(大正2)年再建。

## ③ 松岡邸 (敷地内は非公認)

民俗学者柳田國男の長兄で医師であった松岡鼎の家。1893(明治26)年、一家は國男が少年時代を送った布川から布佐へ転居。凌雲堂医院を開く。國男は旧制一高時代の春休みなどをここで過ごし、友人田山花袋、島崎藤村らも来訪。岡田武松とも交友を結び、地元布佐の文化・教育に寄与した。一方、兄鼎も、医療での地域貢献の他、布佐町長になるなど地元の信頼も厚かった。

## ④ 岡田武松邸跡

1874(明治7)年布佐生まれ。理学博士。中央気象台長。布佐気象送信所を誘致。気象界最高の名誉である英国のサイモンズ賞受賞。文化勲章受章。日本で初めての日本語で書かれた気象学の教科書『気象学』を著し、日本国内の気象学の水準を高めることを目指す。1941(昭和16)年太平洋戦争が近づき、中央気象台を文部省から軍部の管理下に移管しようとする軍部の圧力に最後まで抵抗し、同年に台長辞任後、布佐に移り住み、後進の指導にあたりと共に、布佐の子供たちに本を読む楽しさを伝えようと、自宅の一部に児童図書館を建て、童話、絵本を数多く揃え子供たちに開放した。平成20年11月近隣センターふさの風として開館。多くの市民に利用されている。

## ⑤ 延命寺

創建は1593(文禄2)年。本尊は虚空蔵菩薩。相馬霊場24番札所。1907(明治40)年、住職の名に因む「俊雄水」(目薬)「シユンユウ散」(解熱剤)を頒布。お堂の扁額「虚空蔵菩薩」は頭山満の書。1873(明治6)年、乃華小学校(現布佐小学校)を開校。

## ⑥ 勝蔵院

創建は1592(文禄元)年。本尊は阿弥陀三尊。相馬霊場21番、37番の大師堂がある。21番は徴兵年齢(21歳)の青年の参詣祈願者が多かった。鎌倉時代の和田氏の墓と呼ばれる石碑。

## ⑦ 竹内神社

祭神は天之迺具土命。松並木の参道から石段を登った境内には柳田國男ほかによる「日露戦争戦勝英文祈念碑」。鈴木貫太郎書の忠魂碑。祭礼は9月中旬の3日間、神輿と5台の山車が練り歩く。

